

**特集****若者を魅了する事業とは**

協同組合では全体的に組合員の高齢化が進み、若い世代の新たな参加や関与は減少傾向にあります。事業を持続可能なかたちで発展させていくためには、次世代が積極的に関わりたいと思える組織であることが不可欠です。そのためには、協同組合の意義やしぐみを丁寧に伝えていくことはもちろん、活動の魅力や価値をわかりやすく発信し、人々の共感や関心を引き出す工夫も求められます。デザイン性や発信方法、体験の場づくりなど、若い世代が親しみやすい入口を設けることも重要になっているのかもしれませんが。そこで本特集では、若い世代が協同組合と関わるためにはどのような事業や工夫が求められるのかを、具体的な事例を通じて考えていきます。

特集1では、見た目や味にもこだわった商品づくりを行いながら、障がいの有無にかかわらず誰もが働ける職場づくりに取り組むショコラボ・グループを取り上げます。障がい者の賃金は低いものという固定観念を覆し、新たな可能性を切り開いてきた実践を紹介します。

いまやオンラインでのコミュニケーションは若い世代にとって日常的なものとなっています。特集2では、アプリやWebプラットフォームを活用しながら消費者との新たな関係づくりを進める良品計画の取り組みをみていきます。また、

特集3と特集5では、それぞれ全国農業協同組合連合会とみやぎ生活協同組合の事例を取り上げます。SNSの活用や、若者・家族連れを惹きつける多彩なイベントを通じて、その魅力を発信する取り組みを紹介します。

さらに、実際の若い世代の声にも耳を傾けてみたいと思います。特集4では、日本生活協同組合連合会創立75周年記念事業の一つであるWE CO・OPプロジェクトに参加する若者たちへのインタビューを掲載しました。協同組合に可能性や希望を見出しながらも、その課題についても率直に語る彼女たちの言葉は、多くの示唆を与えてくれます。

本特集では若い世代を意識した事業に焦点を当てていますが、そこで紹介する工夫や取り組みは、協同組合事業全体にとっても参考になるものばかりです。協同組合を取り巻く環境は決して容易なものではありません。しかしその一方で、協同組合に期待される役割はますます大きくなっています。本特集で取り上げるさまざまな実践が、読者のみなさまにとって協同組合の未来を考える一助となれば幸いです。

浮網佳苗(本研究所研究員)